

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2022年3月1日放送分・「東一番丁／定禪寺通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱=辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 「奥州街道を北へ！」シリーズの街歩きが続いています。今回の辻標には、県内にお住まいの方なら誰もが知る名が刻まれています。「東一番丁／定禪寺通」です。
- 東一番丁通は、奥州街道（国分町通）から数えて東に一本目の侍の街という意味です。買い物客でにぎわう商店街ですが、江戸時代は閑静な武家屋敷が軒を連ねていました。
- 明治に入ると、侍たちは「藩」という雇い主を失って困窮しました。そこで、東一番丁に屋敷を持っていた山家（やんべ）豊三郎という人が、彼らを援助して商売をさせたのです。出店や興行も企画して、集客を図りました。そんな工夫が、東一番丁界隈に今に通じる賑わいを生んだのです。

- では、いよいよ今月のメインテーマである「定禪寺」についてです。「定禪寺通」というぐらいで、定禪寺というお寺に通じる通りなわけで、じゃあ定禪寺はどこに、いつ頃まであったの？どうしてなくなってしまったの？色々な疑問が湧いてきますよね。
- 勾当台公園の県庁側に、崖を上がる階段があります。広瀬川が近くを流れていた大昔に削り残した河岸段丘なのですが、定禪寺山門への階段もあの崖をのぼる形でついていたようです。
- 定禪寺は、我々がイメージするお寺と違い、墓地を持たない祈禱寺でした。今の合同庁舎や県庁にかかる形で、広大な寺域を持っていました。しかし明治に入り仙台藩の庇護がなくなった事や、廃仏毀釈運動もあって廃寺となってしまいました。写真の1枚でも見たかつたですね…。
- <文・佐々木淳吾>

